

令和4年度水戸葵陵高等学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号			学校名	水戸葵陵高等学校				課程	全日制普通科				学校長名	鈴木 博光		
教頭名	菅澤 雄二			萩谷 智				事務長名	佐藤 啓							
教職員数	教諭	52	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	11	実習教諭 実習講師	1	事務職員	4	技術職員 等	3	計	83
生徒数	普通科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	27				
		165	93	167	100	166	95			498	287					

2 目指す学校像

<p>「国を愛する」人間の育成：①学校を慈しむ心②郷土を慈しむ心③国を慈しむ心</p> <p>「人を愛する」人間の育成：①家族・自己を慈しむ心②友人を慈しむ心③人類を慈しむ心</p> <p>「平和を愛する」人間の育成：①家庭生活・学校生活の平和を誠実に希求する人間②日本と地域社会の平和を誠実に希求する人間③国際平和を誠実に希求する人間</p> <p>「真に社会に貢献しうる有為な人材」の育成：①「国を愛し、人を愛し、平和を愛する」人間として、道徳性に従って、主体的、自律的に行動できる人材の育成 ②人権を尊重し、社会生活において豊かな人間関係を醸成できる、想像力、情操豊かな人材の育成 ③国際的な視野と高い学識を備え、国際社会、地域社会の期待に応じて創造力、行動力を発揮できる人材の育成</p>
--

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
教育改革	茨城県の15歳人口は約25000人(令和4年1月現在)であるが、県南は人口増加傾向にあるが、県北地区は減少傾向にある。通信制高校や県外の高校への進学希望者など様々な進路を考えると、生徒の獲得競争は極めて厳しい状況である。昨年度の課題にあるように、本校が魅力ある学校となり、社会に貢献できる有為な人材を輩出するために必要な教育を提案する必要がある。	早朝課外、放課後課外の改革、黒板を使った講義形式の授業のみならず、生徒主体なる授業の提案が必要である。また、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、集団行動が自粛されており、協働的な学びを行うことが困難である。さらに、オンライン授業を経験している生徒は、対面での授業に戸惑う場合もある。
進路指導	① 2022年度入試医学部医学科現役合格 ② 国公立大学合格 東北大学(総合型選抜) 旧帝国七大学合格。 茨城大学 茨城県立医療大学 ③ 共通テストの形式が大きく変化し、今まで以上に読解力や判断力そして教科とは関係のない予備知識が求められる。探究の時間等も有効に利用し、生徒に様々な見方のできる考え方を身に着けさせる必要がある。 ④ Chromebook導入2年目となる。オンライン授業では有効に活用できた。さらに進化した利用法に努めたい。	担任のみで考えず、進路指導部、医専チームとの連携が必要である。いつまでも過去の在り方にこだわらず、最新の情報を収集することも必要である。医学部の合格者数に比べ、県内国公立大の合格者が少ない。見方によっては成績上位層は伸ばすことが出来ているが、中間層を伸ばすことが出来ていないと見ることが出来る。中間層をいかに引っ張り上げていくことが課題である。入学時から3年スパンでの進路指導が必要。 読解力強化が必要。数学でも文章把握能力が必要である。探究活動は生徒各自の課題設定であるため、興味のある分野を深く追究できている。発表会等を利用して他グループからの意見を聴き、違う観点からの見方を得ることが必要。 Classiやスタディサプリ等導入しているツールを教員が研究し、生徒にとってより効果的な利用法がないかを追究する必要がある。
進学コーディネーター	以下の1～6までを昨年までは主な業務とした。今年度も、昨年度に引き続き各業務遂行後6を作成していく。さらに今年度も、教育振興会総会後の保護者懇談会が対面で実施予定でないため、『進路資料』の作成は時間がとれる。しかし、「学校基本調査」等の取りまとめは、締め切り日が例年通りなので効率さが求められる。 1. 大学進学関連の情報収集 2. 進路資料の発刊 3. 大学進学関連の情報分析・提供 4. 模擬試験の時間割作成を始めとする実施計画およびその後の処理 5. 進路情報の管理 6. 進学コーディネーターセンターの業務に関するマニュアル作成	具体的な課題としては次の6つ。 ①『進路資料2022』の作成 ② 模擬試験の年間計画作成から申込み、模擬試験の時間割作成、さらに問題仕分け、答案発送、料金の支払いのための支出決議書の作成 ③ 進路情報の管理 ④ 大学進学関連の情報収集 ⑤ 電子化された各文書のClassiを活用しての通知 ⑥ 各種業務に対応するためのマニュアルの作成
生徒指導	特別指導など生徒指導上問題のある生徒は減少。一方、発達障害を抱える生徒や真面目で内向的な生徒が増えてきており、保健室や相談室とのかかわりを持つ生徒は増加。 交通マナー等に関する苦情が増。指導の不徹底も要因に挙げられる。 全ての教員が共通理解・認識をもって組織的に生徒指導に当たることができていない現状がある。 生徒規定や指導方法等、見直しなく形骸化しているものがある。	様々な生徒が在籍する現状を踏まえ、教職員においても、発達障害や心理学的に関する専門知識を学ぶ必要がある。 常日頃から保護者との連絡を密にとり、教育相談係を含めた組織的な指導を実践していく必要がある。 生徒の安全を最優先に、登下校指導や校外巡視についても強化しなくてはならないが、教員の負担が大きく、手が回らない。 場所によっては、車の誘導が必要な場面もある。逆に車の誘導を全くしない教員に対する近隣の方からの苦情も多い。 学習指導や部活動指導は、生徒指導の上にあるということを全教員が自覚する必要がある。
特別活動	コロナ禍により生活様式が変化する中で、互いの価値を認め合いながら、協力して多様性に向き合える環境づくりを目指す。 生徒個々が豊かな人間関係を構築し、自分の学校に自覚と誇りが持てる環境づくりに取り組む。 生徒主体による活動を積極的に行い、生徒・教員が一体となって学校行事に取り組めるよう各部署との連携を図っていく。	コロナウイルス感染症の予防に努めつつ、その中で何がどうできるのか学校行事について協議していく。 情報の共有を図り活動内容をより広く周知させ、生徒個々の興味関心を高める。そのためのPR活動をしっかり行っていく。

4 中期的目標

<p>1. 生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出し、その進路目標を実現するため、生徒個々に応じたきめ細かな進路指導を展開する。そのために、以下の4つの資質・能力について、全教育活動を上げて育成を図る。 (1)自己分析力(2)主体的実行力(3)発信力(4)社会的適応力 2. 個々の生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図るため、学習指導の充実に努める。 3. コミュニケーション能力を涵養し、教師・生徒間の信頼関係を深め、心のふれ合う学年・ホームルーム運営を推進する。 4. 基本的生活習慣の確立と自主的態度の伸長を図り、主体的、自立的に行動できる人材を育成する。 (数値目標) (1)国公立大学の合格者、難関私大の合格者の増加を目指す (2)1年生の部活加入率70%以上を目指す (3)各学年の皆勤者30名以上を目指す</p>
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
本校の教育の特色をあらためて明確化する。	本校職員、在校生、保護者などから本校の教育について意見や情報を収集し、客観化をはかる。社会はどのような人材を求めているか把握する。
①医学科現役合格 ②国公立大学合格 ③総合力の強化 ④ICT教育の充実 ⑤共通テストへの対応 ⑥学習環境の充実	現役合格者の増加を目指す。 筑波大学、茨城大学合格者の増加を目指す。 探究活動での生徒同士の活発な意見交換 ベネッセ、リクルートなどの外部の人による研修会の実施 授業・課外の在り方・使用している問題集の検証 集中して学習する空間(スタディールーム)、コミュニケーションを取りながら学習する空間(ホール)の活用
以下の1～5までを昨年までは主な業務とした。今年度は、各業務遂行後5を継続していく。さらに今年度も、教育振興会総会後の保護者懇談会が校内で実施予定でないため、『進路資料』の作成は時間がとれる。しかし、「学校基本調査」等の取りまとめは、締め切り日が例年通りなので効率さが求められる。 1.大学進学関連の情報収集 2.進路資料の発刊 3.大学進学関連の情報分析・提供 4.模擬試験の時間割作成を始めとする実施計画およびその後の処理 5. 進学コーディネーターセンターの業務に関するマニュアル作成	具体的な課題としては次の6つ。 ①『進路資料2022』の作成 ② 模擬試験の年間計画作成から申込み、模擬試験の時間割作成、さらに問題仕分け、答案発送、料金の支払いのための支出決議書の作成 ③ 進路情報の管理 ④ 大学進学関連の情報収集 ⑤ 電子化された各文書のクラッシーを活用しての通知 ⑥ 各種業務に対応するためのマニュアルの作成
交通安全指導の徹底	全教員で、登下校中の指導に当たる。 HRでの指導の徹底。
生徒会、各種委員会活動を充実させ、主体的に活動できる環境をつくる。	生徒会を中心とした各行事の充実。 ・文化祭 ・野球応援 ・地域活動 ・SDGsの趣旨に伴った生徒会活動。